

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成24年8月6日

【四半期会計期間】 第51期第3四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

【会社名】 株式会社シイエム・シイ

【英訳名】 C M C C O R P O R A T I O N

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐々幸恭

【本店の所在の場所】 名古屋市中区平和一丁目1番19号

【電話番号】 052(322)3351(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 成田克己

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区平和一丁目1番19号

【電話番号】 052(322)3351(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 成田克己

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第50期 第3四半期 連結累計期間	第51期 第3四半期 連結累計期間	第50期
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日	自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日	自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日
売上高	(千円)	8,062,865	10,752,232	12,656,193
経常利益	(千円)	70,093	902,955	749,859
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失()	(千円)	40,960	397,132	349,422
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	12,864	381,642	370,361
純資産額	(千円)	7,795,319	8,425,341	8,178,412
総資産額	(千円)	10,546,314	12,011,217	10,995,363
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額()	(円)	18.26	177.03	155.75
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		176.44	155.61
自己資本比率	(%)	73.9	70.1	74.4

回次		第50期 第3四半期 連結会計期間	第51期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	65.71	15.74

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 第50期第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式として新株予約権がありますが、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。
- 第50期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
- 第50期第2四半期連結会計期間より、新たに株式を取得した丸星株式会社及び同社の100%子会社であるMaruboshi Europe B.V.を、連結の範囲に含めております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに係る重要な変更及び新たに発生した事業等のリスクはありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災発生以来、原子力災害の影響などにより厳しい状況が続くなか、緩やかに回復してまいりました。先行きについては、復興需要等を背景として、景気回復の動きは確かなものとなることが予想されます。ただし、欧州の政府債務危機をめぐる不確実性が高まっており、これらを背景とする金融資本市場の変動や、海外景気の下振れ等によって、わが国の景気が下押しされるリスクが存在しております。また、電力供給の制約やデフレの影響についても、注意が必要な状況となっております。

このような経済環境のもと、当第3四半期連結累計期間の売上高は、10,752百万円(前年同期比2,689百万円増、同33.4%増)、営業利益は882百万円(前年同期比850百万円増、同2,720.0%増)、経常利益は902百万円(前年同期比832百万円増、同1,188.2%増)、四半期純利益は397百万円(前年同期は四半期純損失40百万円)となりました。

これをセグメント別に見ますと、次のとおりであります。

(マーケティング事業)

インターナル・マーケティングは、前年同期間において売上の大きかった業務効率化支援システム関連業務での減少があったものの、国内外における自動車の商品教育案件などの増加、さらには丸星株式会社の自動車業界向け教育案件の増加があり、売上高は1,224百万円(前年同期比36百万円増、同3.1%増)となりました。

エクスターナル・マーケティングは、精密機器関連分野における販売促進案件での減少が見られたものの、自動車の商品訴求映像制作や金融関連分野における販売促進支援施策の案件増加が見られ、売上高は691百万円(前年同期比120百万円増、同21.2%増)となりました。

カスタマーサポート・マーケティングは、自動車向けの修理書を中心として、使用説明書、解説書などの企画・編集・制作業務の増加が大きかったこと、さらには丸星株式会社の寄与もあり、売上高は6,075百万円(前年同期比1,941百万円増、同47.0%増)となりました。

トータルプリンティングは、自動車関連分野における使用説明書及び修理書・解説書の印刷の増加があり、売上高は1,218百万円(前年同期比217百万円増、同21.7%増)となりました。

その他については、コンビニエンスストア売上に加え、丸星株式会社の業務委託等の売上があり、売上高は335百万円(前年同期間比189百万円増、同129.2%増)となりました。

これらの結果、マーケティング事業の売上高は9,545百万円(前年同期間比2,505百万円増、同35.6%増)、営業利益は1,020百万円(前年同期間比916百万円増、同878.5%増)となりました。

(システム開発事業)

ソフトウェア受託開発を主力とするシステム開発事業は、主要なお取引先からの受注案件の増加にともない、売上高は1,206百万円(前年同期間比183百万円増、同18.0%増)となりました。営業損失は5百万円(前年同期間は営業利益18百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

資産の部

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末より1,015百万円増加し、12,011百万円(前連結会計年度末比9.2%増)となりました。これは主として、受取手形及び売掛金の減少が778百万円あったものの、現金及び預金の増加1,329百万円、たな卸資産の増加256百万円によるものであります。

負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末より768百万円増加し、3,585百万円(前連結会計年度末比27.3%増)となりました。これは主として、賞与引当金の減少が187百万円あったものの、流動負債のその他の増加675百万円によるものであります。

純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末より246百万円増加し、8,425百万円(前連結会計年度末比3.0%増)となりました。これは主として、利益剰余金の増加262百万円によるものであります。

(3) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間に完成したものは、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資額 (千円)	完成年月
提出会社	中川センター (名古屋市東区)	マーケティング事業	4色印刷機	211,500	平成24年6月

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,970,000
計	7,970,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月6日)	上場金融商品取引所名 または登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,243,600	2,243,600	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	2,243,600	2,243,600		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日		2,243,600		529,770		443,430

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成24年3月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,242,500	22,425	
単元未満株式	普通株式 900		
発行済株式総数	2,243,600		
総株主の議決権		22,425	

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社シイエム・シイ	名古屋市中区平和 一丁目1番19号	200		200	0.01
計		200		200	0.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年10月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,162,443	3,491,810
受取手形及び売掛金	2,619,656	³ 1,841,103
たな卸資産	774,169	1,031,047
その他	373,646	436,552
貸倒引当金	3,221	2,227
流動資産合計	5,926,694	6,798,287
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	550,405	521,769
機械装置及び運搬具（純額）	277,045	425,994
土地	1,827,880	1,790,655
その他（純額）	93,501	85,250
有形固定資産合計	2,748,833	2,823,670
無形固定資産		
のれん	1,145,195	1,007,771
その他	141,215	335,459
無形固定資産合計	1,286,410	1,343,231
投資その他の資産		
その他	1,044,329	1,056,933
貸倒引当金	10,905	10,905
投資その他の資産合計	1,033,424	1,046,028
固定資産合計	5,068,668	5,212,930
資産合計	10,995,363	12,011,217
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	883,915	³ 967,393
未払法人税等	202,906	312,645
賞与引当金	433,883	246,553
役員賞与引当金	75,300	85,494
その他	365,666	1,041,324
流動負債合計	1,961,671	2,653,410
固定負債		
退職給付引当金	618,394	675,227
役員退職慰労引当金	228,316	252,483
その他	8,568	4,754
固定負債合計	855,279	932,465
負債合計	2,816,950	3,585,876

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	529,770	529,770
資本剰余金	443,430	443,430
利益剰余金	7,169,698	7,432,227
自己株式	377	488
株主資本合計	8,142,521	8,404,939
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,466	20,280
為替換算調整勘定	24,424	120
その他の包括利益累計額合計	35,891	20,401
純資産合計	8,178,412	8,425,341
負債純資産合計	10,995,363	12,011,217

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)
売上高	8,062,865	10,752,232
売上原価	5,960,303	7,400,080
売上総利益	2,102,561	3,352,152
販売費及び一般管理費	2,071,279	2,470,002
営業利益	31,281	882,149
営業外収益		
受取利息	640	1,582
受取配当金	2,979	1,247
受取保険金	3,083	3,191
作業くず売却益	11,001	11,699
補助金収入	11,176	4,545
為替差益	11,086	-
その他	5,203	5,049
営業外収益合計	45,170	27,315
営業外費用		
支払利息	6,252	434
為替差損	-	4,467
保険解約損	7	1,380
その他	97	226
営業外費用合計	6,358	6,509
経常利益	70,093	902,955
特別利益		
固定資産売却益	-	9,256
貸倒引当金戻入額	4,826	-
その他	-	35
特別利益合計	4,826	9,291
特別損失		
固定資産除却損	11,427	-
固定資産売却損	15,982	144
減損損失	-	7,352
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,330	-
投資有価証券評価損	-	1,827
特別損失合計	29,739	9,324
税金等調整前四半期純利益	45,180	902,922
法人税、住民税及び事業税	259,922	564,266
法人税等調整額	173,780	58,476
法人税等合計	86,141	505,790
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	40,960	397,132
四半期純利益又は四半期純損失()	40,960	397,132

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	40,960	397,132
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,560	8,814
為替換算調整勘定	23,535	24,304
その他の包括利益合計	28,096	15,490
四半期包括利益	12,864	381,642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,864	381,642
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成24年6月30日)

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成24年6月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成24年6月30日)

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日至平成24年6月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<p>1 (偶発債務) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。 広州国超森茂森信息科技有限公司 8,236千円 大地新模式電腦制作有限公司 27,115 "</p> <p style="text-align: right;">計 35,352千円</p>	<p>1 (偶発債務) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。 広州国超森茂森信息科技有限公司 18,853千円 大地新模式電腦制作有限公司 35,328 "</p> <p style="text-align: right;">計 54,182千円</p>
<p>2 (裏書譲渡高) 受取手形裏書譲渡高 31,797千円</p>	<p>2 (裏書譲渡高) 受取手形裏書譲渡高 42,274千円</p>
	<p>3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">受取手形 8,572千円 支払手形 94,918 "</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)
減価償却費 163,853千円	減価償却費 157,308千円
のれんの償却額 91,615 "	のれんの償却額 137,423 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年12月22日 定時株主総会	普通株式	134,611	60	平成22年9月30日	平成22年12月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年12月22日 定時株主総会	普通株式	134,603	60	平成23年9月30日	平成23年12月26日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	マーケティング 事業	システム開発 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,040,281	1,022,583	8,062,865		8,062,865
セグメント間の内部売上高 または振替高	19,543	29,018	48,561	48,561	
計	7,059,825	1,051,601	8,111,426	48,561	8,062,865
セグメント利益	104,286	18,817	123,103	91,822	31,281

(注)1 セグメント利益の調整額 91,822千円には、セグメント間取引消去 206千円、のれんの償却額 91,615千円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	マーケティング 事業	システム開発 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,545,824	1,206,408	10,752,232		10,752,232
セグメント間の内部売上高 または振替高	7,796	13,716	21,513	21,513	
計	9,553,620	1,220,125	10,773,745	21,513	10,752,232
セグメント利益または損失 ()	1,020,484	5,410	1,015,074	132,924	882,149

(注)1 セグメント利益または損失の調整額 132,924千円には、セグメント間取引消去4,498千円、のれんの償却額 137,423千円が含まれております。

2 セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	18円26銭	177円03銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	40,960	397,132
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	40,960	397,132
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,243	2,243
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		176円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)		7
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式として新株予約権がありますが、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月6日

株式会社シイエム・シイ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大橋 英之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 伸文 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シイエム・シイの平成23年10月1日から平成24年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年10月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シイエム・シイ及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。